

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

在宅医療における医療・ケア・福祉の連携

医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所新松戸
前田浩利

我が国は、人類未曾有の超高齢化社会に突入しようとしています。人口の減少（2050年には約8900万人）や、高齢者人口に対する就業者人口比の減少（ピークではほぼ1：1）などに加え、死亡者数が増加し、2040年で年間170万人近い方が亡くなると予測されます。しかし、現在の医療システムでは、それだけの死亡者を受け入れることができず、約30万人の方が、あぶれてしまうと言われていています。病院で8割の方が亡くなっており、病院の病床数が、医療システムの受け入れの限界になっているからです。現在、厚労省では省をあげて、医療システムの構造改革に取り組み、在宅医療を整備し、生活してきた場で、最期を迎えられるようなシステムをつくらうとしています。

一方日本の小児医療は、医療技術を進歩させ、多くの子どもの命を救いましたが、救命されたものの人工呼吸器、気管切開、経管栄養などの重い医療ケアが必要な超重症心身障害児が、全国で約8000人は自宅で生活しています。医療の進歩が、在宅医療の整備を切実に必要とする事態を生んでいます。

在宅医療において、多職種連携、医療と福祉、介護の連携の重要性が強調されています。しかし、医療と福祉は、異文化とも言えるほど異なっています。医療者は、命を守るために安全、医学的正しさを優先する傾向があります。そうすると、活動範囲を制限し、ケアの手順は複雑になり、生活を阻害します。福祉は、利用者のニーズを最優先し、それに応える発想が根強くあります。この両者が、互いを理解し合い、「利用者の命を守りつつ、その生活や人生を豊かにし輝かせる」という共通の目的に向かって協働することが、在宅支援を成功させる鍵でしょう。

そして、全ての支援の共通の理念となるべきは、「利用者と家族のニーズに合わせて、福祉と医療が協働してその生活と人生を支える」ということであると考えます。

中核地域生活支援センターの地域づくり

松戸圏域 中核地域生活支援センター ほっとねっと

地域総合コーディネーター 今成貴聖

ほっとねっと開設から9年が経ちました。その間、さまざまな相談に対応し、さまざまな支援を行ってきました。相談者の抱えている悩みや問題に向き合うとき、その多くはほっとねっとの関わりだけで解決できることではありませんでした。福祉や行政、医療や教育、司法や不動産など、さまざまな分野の方々の関わりや協力によって、ほっとねっとの機能が活かされ、ほっとねっととしての力を発揮することができたのだと思っています。

相談支援（ケースワーク）を展開する上で、社会資源の活用、とりわけ高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉における施設やサービスや制度といった福祉的社会資源の活用は欠かせません。しかし、ときとして、既存の社会資源の活用だけでは問題の解決に至らないことがあります。ひとつの相談に応じるために、個々のニーズに応えるために、目の前の問題を解決するために、必要なものを作り出してゆく必要がありました。

相談者の中には家にひきこもりがちな人や日中活動が定まっていない人がいました。その人たちに声をかけ、ほっとねっとに招待し、食事会を行ったのは、ほっとねっと開設から3年目のことでした。月に1回、ホットプレートを使ってお好み焼きやたこ焼きなど簡単な料理をみんなで作って食べておしゃべりするというシンプルな内容ですが、この食事会は今も続いています。

路上生活者の支援を考える会の立ち上げに協力したのは、ほっとねっと開設から4年目のことでした。路上生活者支援に関心のある司法関係者や福祉関係者など数名の有志が集まり、ほっとねっとで定例会を行ったり、駅周辺や河川敷で路上生活者に声かけをしたりしています。小グループによる月1回程度の活動のため、大きな成果をあげているわけではありませんが、熱意ある地道な活動を続けています。

そのほかにも地域活動として、うつ病体験者の集いの開催、高次脳機能障害当事者家族の集いや発達障害者の集いのサポート。また、障害者自立支援法（総合支援法）自立支援協議会、特別支援学校地域移行支援会議、高齢者虐待防止ネットワーク会議、精神障害者地域移行支援協議会、障害者計画策定委員会など、地域のさまざまなネットワーク会議への参加。あるいは、講演会やイベントの開催・後援・協力など、この9年間で多くの活動に携わってきました。

ほっとねっとが行ってきた地域づくりは小さなものの積み重ねであり、集合体であるのだと思います。それはケースワークの積み重ねであり、関係者や関係機関との繋がりであり、ささやかな社会資源の構築でもありました。あるいはそれ自体、地域づくりと言えるほどの活動ではなかったのかもしれませんが、けれども、そのような小さな力が集まって、継続性とみんなの知恵とちょっとした行動力が伴えば、いずれは大きな力となって地域づくりへと発展していく、そう信じてこれからも目の前の問題や活動にひたむきに取り組んでいこうと思っているのです。

松戸圏域 中核地域生活支援センター ほっとねっと

【対象地域】我孫子市・流山市・松戸市

【連絡先】〒270-0034 松戸市新松戸4-129 関口第5ビル1-A

TEL: 047-309-7677 fax: 047-309-7678

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

《九十九里町地域包括支援センター九十九里園 井上淳子さん（九十九里町）》

元気印の井上さん取材に行ったところ、「町自体が元気印！」だとお話してくれました。

九十九里町は、約 18,000 名の町人（まちびと）のうち、約 5,500 名が 65 歳以上の高齢者の、九十九里町です。高齢者の 15%が認知症だとする厚生労働省の推計で換算すると、約 800 人の認知症の方が、いらっしやることになります。

次にあげる 3 つの自慢が、わが町約 800 人の認知症の方を下支えする元気印です。

【自慢 1】 昔ながらの人情

※ ※ 生きがい ※ ※

うちで食べる野菜は庭で作ってます。
たくさん収穫できたから、おすそ分けだよ～（＾＾）/
私が作った鱈のごま漬け、食べてみて…。

ん!? お隣り、雨戸が開まってる…
見に行ってみよ!
見に行ってみよ!
役場に知らせとこっ!
これから買い物に行くけど、
一緒に乗っていくかい!?

【自慢 2】

高齢者が住みやすい
自然環境

この 2 つの自慢を、何気なく実行している町人（まちびと）が、約 800 人の認知症の方を支えつつ、自らの認知症の予防にも努めておられます。これぞ九十九里町の元気印です。

3 つ目の自慢は、この町人を、最大限に生かして支えん！…と結成された『あんとんねえさ～』の専門職達です。

【自慢 3】あんとんねえさ～。不安を話してくったい!

（なんてことないよ。不安を話してみて。）



『あんとんねえさ～』は、平成 25 年 5 月、高齢者本人を始め、その取り巻く方々の孤立を防ごうと、介護系専門職有志により結成されました。絵の得意なグループホーム長はポスター（左）作り。対人援助に慣れたケアマネは、町人に直接語りかけ、会を周知（上の写真）。各自、得意分野を生かして、地道に草の根運動を展開する元気印で、町の大きいなる自慢です。

事業所名：九十九里町地域包括支援センター九十九里園
住 所：千葉県山武郡九十九里町粟生 1532-1
T E L：0475-76-5713



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

司法書士・臨床心理士・精神保健福祉士による共同相談

「こころ」と「いのち」と「おかね」の相談会

- [内 容] 「こころ」の問題の専門家である臨床心理士や精神保健福祉士と、「おかね」の問題など法律の専門家である司法書士と一緒にあなたの相談にのります。一人で悩まず、わたしたちに話をお聞かせ下さい。
- [日 時] 平成25年12月21日(土) 10:00～16:00
平成26年 1月25日(土) 10:00～16:00
平成26年 3月 1日(土) 10:00～16:00
- [会 場] 千葉市民会館(千葉市中央区要町1-1)
- [相 談] 無料 [予 約] 不要
- [問合せ先] 千葉司法書士会
Tel: 043-246-2666

平成25年度思春期講演会・自殺対策相談支援者研修会

思春期の危機について考える

- [内 容] 思春期には引きこもりや自傷行為、不登校、家庭内暴力など様々な問題に直面することがあります。子どもの声に耳を傾けるには、どう理解し接していけばよいか一緒に考えてみませんか？
- [日 時] 平成25年12月20日(金) 14:00～16:30
- [場 所] 千葉市文化センター3階アートホール(千葉市中央区中央2-5-1 ツインビル2号館)
- [プログラム] 講演『思春期の危機について考える』
講師: 花澤寿氏(千葉大学教育学部教授・精神科医)
- [参加費] 無料 [申込締切] 12月12日(木)
- [定 員] 490名(事前申込制)※申込定員を超える場合は、お断りする場合がございます
- [対 象] 一般市民(家族)、教職員、相談従事者等関係者 など
- [申 込] お名前、住所、ご連絡先を下記申込先までお電話・Faxにてお申し込みください。
- [申込・問合せ先] 千葉県精神保健福祉センター 調査研究課
Tel: 043-263-3891 Fax: 043-265-3963

発行元: 千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局: さんぶエリアネット(山武圏域) 山武市成東189-3

TEL: 0475-53-5208

FAX: 0475-80-2808

編 集: いちはら福祉ネット(市原圏域) 市原市東国分寺台3-10-15

TEL: 0436-23-5300

FAX: 0436-23-5225

※内容についてのお問い合わせは、いちはら福祉ネット(担当: 高地)までお願いします。